

SYLLABUS 2026

中 学 受 験 部

小6 後期

CONTENTS

- 1 年間スケジュール
- 3 入試過去問題演習
- 4 模擬試験の受け方
- 5 後期の学習
- 6 SSクラス統一テスト・土曜YT講座
- 7 国語の後期の学習(SSクラス)
- 9 国語の後期の学習(SB・SAクラス)
- 11 算数の後期の学習(SSクラス)
- 13 算数の後期の学習(SB・SAクラス)
- 15 社会の後期の学習(SSクラス)
- 17 社会の後期の学習(SB・SAクラス)
- 19 理科の後期の学習(SSクラス)
- 21 理科の後期の学習(SB・SAクラス)
- 23 授業カレンダー

年間スケジュール

	授業	テスト	講座・イベントなど
2026年 2月			
3月		組分け テスト	保護者会 中学入試 報告会
4月	前期	合不合格 判定 テスト	土曜YT講座
5月		組分け テスト	NN志望校別 オープン模試②
6月		組分け テスト	NN志望校別 オープン模試③
7月	夏期講習会	合不合格 判定 テスト	NN志望校別 オープン模試④
8月	夏期集中特訓		NN主催模試 ※対象校ごとに実施時期やテスト名称が異なります。
9月		合不合格 判定 テスト	NN志望校別 オープン模試⑤
10月		合不合格 判定 テスト	NN志望校別 オープン模試⑥
11月	後期	合不合格 判定 テスト	NN志望校別 オープン模試⑦
12月	冬期講習会	合不合格 判定 テスト	NN志望校別 オープン模試⑧
2027年 1月	正月特訓		入試激励会

※変更が生じる場合がございます。

● NN志望校別コース（日曜講座・土曜講座）

学校別クラス編成により御三家中や早慶中などの志望校別対策を実施する講座で、前期は日曜のみ、後期は土曜も開講します。「NN」とは「何がなんでも」を略したものです。同じ学校を志望するお子様を会場に集め、平日は同じ授業を受けていないライバルとの競争を楽しみながら切磋琢磨できる環境で、入試本番を見据えた授業を行います。それぞれの学校の入試問題を知り尽くした講師が、授業だけでなく教材の開発や模試の作成、進路指導なども行います。受講にあたっては志望校別を実施される模試を受験し、合格基準をクリアする必要があります。受講資格の判定材料となる模試は出題形式・出題傾向ともに学校の入試問題そっくりにつくられており、試験の解答時間や実施科目の順序も本番と同様に実施します。模試を実施する際には並行して保護者様対象の説明会も開催し、合格に向けて役立つ情報をご提供します。4月から7月に実施される前期講座と9月から1月に実施される後期講座があり、前期講座の受講資格を得た方も、7月以降の志望校別の模試で改めて後期講座の受講資格を得る必要があります。1月は「直前特講」として対象校の入試に似せた「そっくりテスト」を用いて対策を行います。

● 土曜YT講座（詳細はP.6へ）

● 日曜特訓

日曜の午後に実施する講座です。例えば、「割合と比の文章題」のように、1回の授業を多くの生徒が苦手としているテーマ一つに絞って徹底的に強化していくようカリキュラムを組んでいます。平日の授業に比べ問題演習に多くの時間を割くため、演習量が確保できます。講座は各自の希望する回を選んで受講することができますので、「苦手科目や弱点単元を補強したい」「得意科目をさらに伸ばして得点源にしたい」「問題演習をたくさん行うことで実戦経験を多く積みたい」「競争しながら自分の力を高めたい」「日曜日も学習に取り組むことでライバルに差をつけたい」など、さまざまなニーズに合わせてご利用いただけます。

● 四谷大塚主催 合不合格判定テスト

受験者数が最大で15,000名を超える、首都圏最大規模の合格可能性判定模試です。前期に2回、後期に4回の年間計6回実施されます。合格判定が出るのは最大6校までで、試験日程ごとに1校ずつの判定となります。試験後の配付資料では、入試日程ごとに志望者数や偏差値別の成績順位などがわかります。Webでも弱点を見抜く学習診断表を確認できますので、同じ学校を志望する受験生と比較して正解すべき問題を知ることできます。帳票についても、四谷大塚で長年蓄積されたデータと最新の入試情報をもとに合格可能性や受験適正校などがわかりやすく示されます。

● ONETES主催 合格ONEテスト

受験者数は四谷大塚の合不合格判定テストに匹敵する模試です。四谷大塚の合不合格判定テストと同じく前期に2回、後期に4回の年間計6回実施されます。早稲田アカデミーでは、必要と思われる方には個別に受験をおすすめしています。

● SSクラス統一テスト（詳細はP.6へ）

● 保護者会・個別面談

定期的実施する保護者会では、最新の入試情報や各科目の学習法について、担当講師よりお話をさせていただきます。個別面談では、保護者様と講師でお子様の情報を共有し、成績の向上、志望校や受験校の決定に向けた進路相談を行います。

● 講習会（春期・夏期・冬期）

春期は4月に行われる模試に備えた復習をします。夏期はこれまでの学習内容のなかで、重要な内容の総復習と入試への基礎固めを行います。冬期は入試前の総仕上げや最終チェックを行います。

● 夏期集中特訓

非宿泊型で集中学習を行います。普段とは違う教室（会場）で、ライバルたちと一緒に授業を受ける環境が適度な緊張感を生み、学習に対する意欲と集中力が高まります。自分の力で最後までやり抜いた経験は、大きな自信につながります。

● 中学入試報告会

「中学入試報告会」では、中学入試概況や次年度入試の展望についてお伝え致します。

早稲田アカデミーの小6難関中学受験対策「NN（何がなんでも）志望校別コース」で指導を行う経験豊富な講師が、科目別の問題分析や傾向について解説致します。

● 夏フェス

「夏フェス」は毎年大好評をいただいている早稲田アカデミー主催の学校見学会・講演会です。「学校見学会」では、実際に学校へ足を運んで、各中学校の先生のお話や、実際の生徒たちの様子、学校の設備などを確認できます。ご自身の目や耳で実際に確認することで、学校の本当の姿が見えてきます。

● 秋フェス

複数の学校の先生方をお招きし、それぞれの学校の魅力を直接お話しいただく「秋フェス」の講演会では、学校ごとの特徴を比較しながら、お子様に合った学校を探すことができます。

入試過去問題演習

目的

受験予定校の「入試過去問題」(以降、過去問)を解くことは非常に大切です。次の3つの点を踏まえ、過去問に取り組んでください。

①入試問題の傾向をつかみましょう。

どのような分野が重視され、どのような解答形式を求められているのかを知ることが大切です。これにより、入試当日の解き方に役立てるためという意味以上に、入試までの期間の学習バランスやポイントを絞り込むうえで、効率的に「志望校対策」を進めることができます。

②時間配分の感覚をつかみましょう。

入試問題を余裕を持って解くことは、実際にはかなり難しいことです。学校にもよりますが、総じて合格最低点は6割～7割といったところが多いです。全てを解こうとすると、逆に空欄をつくってしまうこともあるので、解かなくてはいけない問題と、難しくて後回しにすべき問題をしっかりと見極めることが大切です。また、全体の分量や問題配置の仕方、題材の文章の長さ、設問・選択肢の設定などもきちんと分析・理解しておきましょう。

③解法の技術を磨きましょう。

過去問は「過去」という言葉の通り、すでに出題されたものですから、全く同じ問題が次年度に出題される可能性は高いわけではありません。しかし、それぞれの学校特有の傾向は継続されます。過去問演習を通して、学校の特徴をつかみ、それぞれの学校に応じた解き方の対策を行う必要があります。

標準的な過去問演習の流れ

9月のはじめから1月の最終週までにおおよそ20週の期間があります。いつ、どの学校の、どの年度の、どの科目を実施するのかというスケジュールについては、各校舎にご相談ください。なお、NN志望校別コースが管理する年度の過去問については、事前に実施スケジュールをお伝えします。

9月の第1週の授業で、過去問演習に関するオリエンテーションを実施します。家庭学習として実施した過去問は、解答用紙を4科まとめて過去問演習進行表に挟み込み、翌週の初回授業で授業担当の講師に提出してください。4科目の担当講師が実施した過去問の内容をチェックし、預かった翌週の初回授業で返却します。このため、2回目の過去問提出時から、実施した過去問の提出と、チェックされた過去問の返却を同時に行います。過去問の提出が遅れると、返却も遅れてしまうので注意しましょう。やむを得ない事情でスケジュールが崩れたときは担当講師と相談し、計画の再構築をしましょう。

注意点

過去問演習をより効果的なものにするために、次の点に注意して演習を進めてください。

- ①市販の問題集を購入して演習します。解答用紙については、特に記述問題の多い国語はできる限り原寸大の大きさに実施してください。算数は余白が極端に狭い状態で演習を行うことは避けましょう。また、Web上で過去の入試問題を公開していたり、窓口で販売していたりする学校があります。実物が手に入るのであれば、できるだけ実物で演習をするのが効果的です。
- ②時間を計り、テスト形式で実施します。「時間配分の感覚」をつかむために必要です。
- ③必ず丸付けと復習・解き直しをします。間違えてしまった問題は、その原因までしっかりと考え、次回の演習に役立てます(国語の記述問題など、自分で○×の判断がつかないものは、そのまま提出してください)。
- ④自力で解決できなかった問題は、必ず担当講師まで質問してください。

NN志望校別コースで管理する過去問演習

NN志望校別コースでは、クラスによって対象校の過去問の特定の年度が宿題になります。NN志望校別コースから課された過去問については、校舎に提出する過去問演習とは別にNN志望校別コースが管理します。各NNクラスからの指示に従い、決められた期日までに各NNクラスの担当講師に提出してください。

模擬試験の受け方

模擬試験を受ける意味

模擬試験（以降、模試）は実際の入試に向けた練習の場、確認の場であり、極端な言い方をすれば、「失敗する場」です。失敗の原因を考え修正し、入試本番に備えるための機会になります。模試を受験することは次の点で大きな意味があります。

- ①目標の設定 次の模試に向けて課題の克服を図り、試験に向けた学習法、学習サイクルを確立させていきます。
- ②試験の練習 試験会場での緊張感、初見の問題を前に時間配分を考える練習など、通常の授業や家庭学習では経験できないものです。
- ③課題の把握 うまくできなかったときの原因分析、間違えた問題の解き直しなど、どうすれば良いのかという課題が見えてきます。

また、模試の結果として返却される数字についても、確認しておく必要があります。合格可能性の数値は、多くの模試で80%が上限値として設定されています。この80%という数値のラインは実際にはどういったものなのかを説明します。ある学校のデータでは志望者の上位の13名に80%という数値が示されました。この数値を実際の入試に当てはめると合格者のおよそ4分の1の人数しか、80%の合格率は出ていない結果になります。つまり、合格者の中に合格可能性が80%あった生徒は4人に1人しかいないということになります。この数値を50%まで広げても、まだ、合格者数にまで至っていないのです。「80%」という数値にこだわりすぎるよりも、「50%」という数値をひとつの目標において頑張ることが大切です。

模擬試験の種類と選択

総合模試

四谷大塚「合不合判定テスト」や、ONETES「合格ONEテスト」、サピックス「合格力判定サピックスオープン」、日能研「合格判定テスト」などです。いずれかの中学校の出題傾向・形式に絞るのではなく、一般的な問題と解答形式による総合力判定のための模試で、受験したい中学校の合格可能性がパーセンテージで示されるので、受験校選択の目安として活用できます。

学校別模試

「開成中オープン模試」のように、一つの学校に絞り、問題傾向や難度、時間まで、全てそっくりの形式で実施されるものです。早稲田アカデミー「NN志望校別オープン模試」、四谷大塚「学校別判定テスト」、サピックス「学校別サピックスオープン」などがあります。もちろん、その対象となる中学校の受験を考えている生徒のみが受験するものです。

総合模試はひとつの模試を継続して受験することが大切です。「合不合判定テスト」であれば、9月実施分から12月実施分まで、全て受験してください。どの科目においても全ての単元からの出題を1回に盛り込むのは不可能で、単元内容は数回に分散して出題されます。全ての回を受験することで、満遍なく自分の力を測ることができるのです（逆に考えれば、1回の模試が悪かったからといって、それで「総合力がない」と判断する必要はありません）。学校別模試は、志望校の模試があれば受験を強くおすすめします。上手に活用すれば、学校別オープン模試の受験は、その学校の過去問1年分を解くよりも価値があります。できるだけ積極的に受験してください。

小6後期に実施される模擬試験

●四谷大塚主催 合不合判定テスト

首都圏最大規模の合格可能性判定模試で、早稲田アカデミー小6生の必修テストです。最新の入試傾向を反映した問題が出題され、また長年蓄積されたデータをもとに合格可能性や受験適正校などが示されます。最上位の学校についても信頼できる判定がでます。

●ONETES主催 合格ONEテスト

合不合判定テストに匹敵する数の小6生が受験する合格判定模試です。早稲田アカデミーにおいては、必修テストではないので別途の申込が必要です。合不合判定テストより解きやすい問題が中心で、合格判定を行える学校の裾野が広いことが特徴です。

●NN主催模試

御三家や早慶附属中など、NN志望校別コースを設置している最難関校のそっくり模試兼入会資格審査です。出題傾向はもちろん、解答形式まで本番同様です。その学校の志望者内での順位や偏差値、正答率などを確認することができます。

●四谷大塚主催 学校別判定テスト

四谷大塚が主催するそっくり模試です。NN設置校以外の志望校のテストが実施される場合には、受験をしても良いでしょう。

●サピックス主催 学校別サピックスオープン

サピックスが主催するそっくり模試です。そっくり模試としての規模が大きいため、NN志望校別コースでは、受験をすすめることがあります。NN設置校以外でも志望校のテストが実施される場合には、受験をしても良いでしょう。

後期の学習

1週間で40時間の学習時間

後期は1週間で40時間程度の学習時間の確保を目指します。40時間のうち平日や週末の塾で授業を受ける時間を除くと、家庭学習にあてられる時間は、NN志望校別コースを受講される方の場合で18時間程度、受講されない方で24時間程度になります。このなかで、平日の授業の宿題をはじめ、後期から本格的に始まる志望校の入試過去問題演習や、NN志望校別コースを受講される方の場合にはNN志望校別コースからの宿題に取り組む時間も確保しなければなりません。科目ごとの家庭学習の標準的な時間の内訳をまとめたのが下の表です。実際には科目の得意・不得意、志望校の可否を分ける重要な科目であるかどうかという科目ごとの優先順位の違いなどによって調整が必要となる場合がありますが、こちらの表に示されている時間から大きく逸脱することがないようにバランスよく取り組む必要があります。

1週間あたりの標準的な家庭学習時間

NN志望校別コースを受講される方

(単位:時間)

	国語	算数	社会	理科	合計
通常授業の宿題	1	3~4	2	2	8~9
NNからの宿題	1	1~2	1	1	4~5
過去問演習	1.5	1.5	1	1	5
合計	3.5	6.5	4	4	18

※土曜講座は2科目受講を標準としています。

NN志望校別コースを受講されない方

(単位:時間)

	国語	算数	社会	理科	土日講座の復習	合計
通常授業の宿題	1.5	5	3	3	3	15.5
過去問演習	1.5	1.5	1	1	—	5
合計	3	6.5	4	4	3	20.5

後期のタイムスケジュール例

※月・水・金に通常授業がある場合

6:00	月	火	水	木	金	土(NN受講)	土(NN非受講)	日(NN受講)	日(NN非受講)		
	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠		睡眠			
7:00	家庭学習算数	家庭学習算数	家庭学習算数	家庭学習算数	家庭学習算数	家庭学習算数		家庭学習算数			
	朝食他	朝食他	朝食他	朝食他	朝食他	朝食他		朝食他			
8:00	学校	学校	学校	学校	学校	休憩	休憩	休憩	休憩		
9:00						移動	家庭学習時間予備	移動	家庭学習時間予備		
10:00						NN土曜講座 (2時間30分)		NN日曜講座 (2時間30分)			
11:00						昼食他	土曜YT講座	NN日曜講座 (2時間30分×2)	日曜特訓 (2時間30分×2)		
12:00										昼食他	昼食、移動他
13:00										NN土曜講座 (2時間30分)	
14:00						移動	NNの宿題②	移動、夕食他	移動、夕食他	移動、夕食他	
15:00						移動					
16:00						移動	休憩	移動	休憩	移動	
17:00						塾の授業 (100分×2)	家庭学習理科	塾の授業 (100分×2)	NN受講:NNの宿題① NN非受講:家庭学習算数	塾の授業 (100分×2)	夕食他
18:00	夕食他										
19:00	移動、夕食	家庭学習社会	移動、夕食	家庭学習国語	移動、夕食	家庭学習 算数 入試過去問題演習	家庭学習 算数 入試過去問題演習	NNからの過去問指示 入試過去問題演習	家庭学習 社会・理科 入試過去問題演習		
20:00										授業の復習など	
21:00	就寝準備	就寝準備	就寝準備	就寝準備	就寝準備	就寝準備		就寝準備			
22:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠		睡眠			
23:00											
24:00											

SSクラス統一テスト（10月・11月・12月）

難関校入試に特化した出題と母集団

難関校入試において差のつく「初見問題」攻略には、これまで身につけた知識や解法をどう活用するかが重要です。全ての中学受験生が対象となる合不合判定テストとは異なり、難関校に特化したオリジナル問題により、間近に迫った入試本番に向けた成果の確認と課題の抽出を行います。

過去の合格者と単元別／分野別に比較・分析

早稲アカSSクラス在籍生を対象とした過去実施分のデータを最大限に活用。御三家中、早慶中をはじめとした難関校合格者が、どの単元・分野でどれくらいの正答率を残していたかと直接比較することで、現時点での到達度、今後に向けた課題の抽出の重要な指標となります（理科・社会の時事問題など、一部の設問を除いて過去実施回と同じ問題を使用して実施します）。

土曜YT講座（9月～1月）

インプットからアウトプットに重点を

6年生の1学期までは、各回の単元の中に新しい学習内容が含まれることが多く、それらを理解し、知識や解法などを身につけるための、いわゆるインプットに重点を置いた学習が中心でした。入試本番に向けて、習得した知識や解法を使ってさまざまな問題を解く、アウトプットに重点を置いた学習にシフトしていくことが重要です。膨大な範囲のどこから出題されるかわからない入試に備えて、土曜YT講座のテストでアウトプットの機会を増やし、課題の発見と克服に努めることが成績伸長につながります。

入試に向けて実戦的な問題演習の時間を確保

志望校の合格を勝ち取るためには、学力を高めることに加えて、テストで自分の力を出し切ることがとても重要です。土曜YT講座では、適度な緊張感のある実戦的な環境のなかで問題を解くことによって、本番に向けた経験値を高めていきます。1学期の講座に比べて解答時間を長くすることで、より実戦的な演習となっています。

タイムテーブル例（後期）

13:30～13:35	13:35～14:10	14:10～14:45	14:45～14:55	14:55～15:45	15:45～16:35	16:35～16:40	16:40～17:00	17:00～17:20	17:20～17:25
氏名記入	社(理)テスト (35分)	理(社)テスト (35分)	休憩	国(算)テスト (50分)	算(国)テスト (50分)	休憩・移動	解説授業①*	解説授業②*	解答解説配布

※「土曜YT講座」では、テスト終了後すぐに、テスト時間が長く配点も高い国語と算数の解説授業を実施します。家に帰ってからではなく、まだ解いたときの記憶が鮮明なうちに解説を聞くことで、お客様の理解を深めることができます。

年間予定表（後期）

実施日 種類 主な 出題内容	8/29	9/6	9/12	9/19	9/26	10/3	10/11	10/17	10/24	10/31	11/3	11/7	11/15	11/21	11/28	12/6	12/12	12/19	1/9	1/16
	(土)	(日)	(土)	(土)	(土)	(土)	(日)	(土)	(土)	(土)	(火・祝)	(土)	(日)	(土)	(土)	(日)	(土)	(土)	(土)	(土)
	●	合不合	●	●	●	●	合不合	●	●	●	★	●	合不合	●	●	合不合	●	●	●	●
	下 第1回	—	下 第2回	下 第3回	下 第4回	下 第5回	—	下 第6回	下 第7回	下 第8回	—	下 第9回	—	下 第10回	下 第11回	—	下 第12回	下 第13回	下 第14回	下 第15回

種類：●…通常回（4科目/2科目） ★…全国統一小学生テスト
※合不合判定テストは必修テストのため、別途のお申し込みは必要ありません。
※8/29(土)は、9月の講座として実施します。



国語の後期の学習（SSクラス）

学習目標

前期と夏の学習を通して、中学入試に必要な文章読解・漢字・言語知識の総復習がひと通り完了しています。後期でも、重要分野・単元を中心に穴埋め・強化をしていきますが、一番の目的は「得点力の強化」です。文章読解における読み方・解き方や、漢字・言語知識といったこれまでに身につけてきたことが実戦演習のなかで活用できるかを確認し、着実に得点へと結びつけていく作業を進めます。また、ご自身の志望校については、NN志望校別コースやご家庭での過去問演習を通して、その出題傾向をきちんと把握し、合格点を取るための戦略を徹底的に分析・実践していくように指導いたします。

後期授業カリキュラム

		授業①		授業②	
		αパターン	βパターン	αパターン	βパターン
9月	第1週	休講日		合不合判定テスト対策	
	第2週	[選択肢]の問題②		オリジナル教材演習(1)	[選択肢]の問題②
	第3週	[短い記述(30～60字)]の問題		オリジナル教材演習(2)	[短い記述(30～60字)]の問題
	第4週	[長い記述(80字以上)]の問題		オリジナル教材演習(3)	[長い記述(80字以上)]の問題
	第5週 第1週	[抜き出し・空欄補充]の問題		合不合判定テスト対策	
10月	第2週	SSクラス統一テスト		詩・短歌・俳句	
	第3週	オリジナル教材演習(4)	詩・短歌・俳句	[説明(言いかえ)]の問題	
	第4週	オリジナル教材演習(5)	[説明(言いかえ)]の問題	[原因・理由]の問題	
	第5週	オリジナル教材演習(6)	[原因・理由]の問題	[気持ち]の問題	
	第5週 第1週	SSクラス統一テスト		合不合判定テスト対策	
11月	第2週	SSクラス統一テスト		合不合判定テスト対策	
	第3週	[表現]の問題		オリジナル教材演習(7)	[表現]の問題
	第4週	[主題・要旨]の問題		オリジナル教材演習(8)	[主題・要旨]の問題
	第5週 第1週	SSクラス統一テスト		合不合判定テスト対策	
	第2週	[自分の意見・考え]の問題		オリジナル教材演習(9)	[自分の意見・考え]の問題
12月	第3週	入試直前対策(1)		オリジナル教材演習(10)	入試直前対策(1)
	第4週	入試直前対策(2)		休講日	
	第5週	休講日		オリジナル教材演習(11)	入試直前対策(2)
1月	第2週	休講日		入試直前対策(3)	
	第3週	休講日		オリジナル教材演習(12)	
	第4週	オリジナル教材演習(12)		オリジナル教材演習(13)	
	第5週	オリジナル教材演習(14)		オリジナル教材演習(15)	

※αパターン・βパターンのどちらで進めるかは、クラス状況に応じて異なります。

教材の紹介

予習シリーズ6年下(難関校対策)

文章読解は、各回のテーマが「設問別」になっているのが特徴です。また、言語知識は“理解が中心の単元”について、既習内容の中でも重要な単元を総復習します。問題演習時は付属の解答用紙に解答します。解説時には、重要な部分に線を引いたり、余白にメモを書き込んだりしながら理解を深めましょう。

記述特訓

記述力強化のための早稲田アカデミーオリジナル教材です。近年の入試問題で頻出のテーマや、今年書店に並んだ作品から作問した問題を取り入れ、最新の入試傾向に対応するための力を鍛えます。

中学入試問題集S

難関校の入試問題が計20題掲載されています。入試本番と同じ試験時間での取り組み、実戦のなかでの「時間配分」の感覚や「得点力」を鍛えます。

漢字とことば6年下

漢字と言語知識の家庭学習用教材です。漢字は各回40問の「中学入試頻出漢字」が出題されます。また、言語知識は“語彙を広げる単元”の中でも重要なものについて、入試問題から抜粋した問題に取り組みながら総復習します。漢字はテキストに直接書き込み、言語知識は付属の解答用紙に解答しましょう。

四科のまとめ

講習会や1月の授業で、言語知識の総まとめ用として使用する教材です。難度に応じてレベル別に構成されています。入試を迎えるまでに全ての単元において「レベルA・B」に登場するものはマスターしたいものです。演習時には付属の解答用紙を活用しましょう。

宿題の進め方

NN志望校別コースを受講される方

1) 漢字テスト・言語知識テストへ向けた学習[45分]

『漢字とことば6年下』より指定された範囲に取り組み、次回の授業冒頭で実施する確認テストへ向けた学習を進めましょう。

※通常授業の国語の宿題に割り当てられた時間は「1時間/週」です。残りの時間は授業の復習や課題克服のための時間に充てましょう。

NN志望校別コースを受講されない方

1) 漢字テスト・言語知識テストへ向けた学習[45分]

『漢字とことば6年下』より指定された範囲に取り組み、次回の授業冒頭で実施する確認テストへ向けた学習を進めましょう。

2) 文章読解問題1題[45分]

『予習シリーズ6年下(難関校対策)』の文章読解問題のうち、授業で扱わない問題があればそちらに取り組みます。

※通常授業の国語の宿題に割り当てられた時間は「1.5時間/週」です。残りの時間は授業の復習や課題克服のための時間に充てましょう。

学習上の留意点

文章読解

後期の授業では「読む力」を鍛えつつ、「解く力」の養成を中心に授業を進めます。なかでも記号選択問題は「なんとなく」ではなく、「選択肢内の表現を丁寧に吟味し、本文中の根拠に基づいて選ぶ」という論理的な解き方を大切にしましょう。記述問題についても同様に、ただ闇雲に書くのではなく、「設問で聞かれたことに対して的確かつ過不足なく答えているか」、「日本語として正しく書けているか」といったことにも気を配りながら、丁寧に解答を組み立てる姿勢を心掛けましょう。また、演習後に解説を受けたことで書けた気になって終わりにするのではなく、実際に手を動かして、本当に自力で書けるのかを確認することを忘れないでください。

入試過去問題演習

ご家庭で志望校の入試問題に取り組む際には、次の点に注意してください。①解答用紙は可能な限り原寸大でご用意ください。②必ず入試本番と同じ時間で実施しましょう。「時間配分」を知ること大切な目的のひとつですので、時間を長くしたり短くしたりしてしまうとその効果が得られません。③記号選択問題や抜き出し問題は自分で採点しましょう。また、記述問題についても最終的には自分で採点できるようになりたいものですが、判断に迷うものは担当講師に任せていただいても構いません。④間違えてしまった問題については、原則全問、正答とその導き方を確認したいものです。ただし、丁寧に解き直す作業については、全問行う必要はありません。記述問題を中心とした重要なもののみに絞り、30分程度に収まる範囲内で解き直しましょう。⑤過去問演習をする目的は、その問題で点数を取ることでありません。過去の出題傾向を知ること、来年の入試に対応する力を養ってこそ、過去問演習をする意味が生まれます。点数に一喜一憂するのではなく、「大問構成」「出題されやすい文種やテーマ」「頻出の設問パターン」などを分析することで、「試験時間内にどうやって『合格点』をもぎ取っていくのか」という明確な戦略を練りましょう。そして、それを次に演習する際に生かして、自分の感覚に刻み込んでいくことが重要です。

模試の復習

後期は合不合判定テストだけでなく、NN志望校別コースや他塾の学校別模試も多数実施され、月によっては毎週のようにテストの受験と結果の返却が繰り返されることになります。「ただ受験するだけ」にならないように、復習する時間をきちんと確保しながら、回数を重ねるごとに時間の使い方や答案の仕上げ方の完成度を高めていけるようにしましょう。

入試直前期の学習

冬期から1月にかけては、入試本番を目の前にした焦りから、「何をしたらよいかわからない」という事態に陥りがちです。引き続き、実戦のなかでの得点力を伸ばしていくことも重要ですが、むしろこの時期に「基本」に立ち返ることも大切にしてください。改めて、「物語・小説を読むときにはどのようなことを意識するのか」や「指示語の問題はどのように処理するのか」といった、これまでに身につけてきた作業を丁寧に振り返ることが、本番での「あと1点」をもぎ取る力になるはずです。



国語の後期の学習（SB・SAクラス）

学習目標

前期と夏の学習を通して、中学入試に必要な文章読解・漢字・言語知識の総復習がひと通り完了しています。後期も引き続き、各分野・単元を満遍なく扱い、穴埋め・強化を進めます。毎月実施される合不合格判定テストやONETES主催の合格ONEテストといった総合力が試されるテストの結果を参考にしながら、得意分野の実力アップとともに、苦手分野の補強にバランス良く取り組みましょう。また、ご自身の志望校については、ご家庭での過去問演習を通して、その出題傾向をきちんと把握し、合格点を取るための戦略を徹底的に分析・実践していくように指導いたします。

後期授業カリキュラム

		授業①	授業②
		学習内容	学習内容
9月	第1週	休講日	合不合格判定テスト対策
	第2週	[選択肢]の問題②	[選択肢]の問題②
	第3週	[短い記述(30～60字)]の問題	[短い記述(30～60字)]の問題
	第4週	[長い記述(80字以上)]の問題	[長い記述(80字以上)]の問題
	第5週 第1週	[抜き出し・空欄補充]の問題	[抜き出し・空欄補充]の問題
10月	第2週	合不合格判定テスト対策	詩・短歌・俳句
	第3週	詩・短歌・俳句	[説明(言いかえ)]の問題
	第4週	[説明(言いかえ)]の問題	[原因・理由]の問題
	第5週	[原因・理由]の問題	[気持ち]の問題
	第5週 第1週	[自分の意見・考え]の問題	[自分の意見・考え]の問題
11月	第1週	休講日	休講日
	第2週	合不合格判定テスト対策	[表現]の問題
	第3週	[表現]の問題	[主題・要旨]の問題
	第4週	[主題・要旨]の問題	合不合格判定テスト対策
	第5週 第1週	[自分の意見・考え]の問題	[自分の意見・考え]の問題
12月	第2週	入試直前対策(1)	入試直前対策(1)
	第3週	入試直前対策(2)	入試直前対策(2)
	第4週	入試直前対策(3)	休講日
	第5週	入試直前対策(2)	入試直前対策(3)
1月	第2週	休講日	入試直前対策(3)
	第3週	休講日	[主題・要旨]の問題
	第4週	[自分の意見・考え]の問題	入試直前対策(1)
	第5週	入試直前対策(2)	入試直前対策(3)

※クラス状況に応じて、カリキュラムを変更する場合があります。

教材の紹介

予習シリーズ6年下(有名校対策)

文章読解は、各回のテーマが「設問別」になっているのが特徴です。また、言語知識は「理解が中心の単元」について、既習内容の中でも重要な単元を総復習します。問題演習時は付属の解答用紙に解答します。解説時には、重要な部分に線を引いたり、余白にメモを書き込んだりしながら理解を深めましょう。

演習問題集6年下(有名校対策)

『予習シリーズ』と同等のレベルの文章読解問題が用意されている補助教材です。問題演習時は付属の解答用紙に解答します。

中学入試問題集R

有名校の入試問題が計20題掲載されています。入試本番と同じ試験時間での取り組み、実戦のなかでの「時間配分」の感覚や「得点力」を鍛えます。

漢字とことば6年下

漢字と言語知識の家庭学習用教材です。漢字は各回40問の「中学入試頻出漢字」が出題されます。また、言語知識は「語彙を広げる単元」の中でも重要なものについて、入試問題から抜粋した問題に取り組みながら総復習します。漢字はテキストに直接書き込み、言語知識は付属の解答用紙に解答しましょう。

四科のまとめ

講習会や1月の授業で、言語知識の総まとめ用として使用する教材です。難度に応じてレベル別に構成されています。入試を迎えるまでに全ての単元において「レベルA・B」に登場するものはマスターしたいものです。演習時には付属の解答用紙を活用しましょう。

宿題の進め方

NN志望校別コースを受講される方

1) 漢字テスト・言語知識テストへ向けた学習[45分]

『漢字とことば6年下』より指定された範囲に取り組み、次回の授業冒頭で実施する確認テストへ向けた学習を進めましょう。

※通常授業の国語の宿題に割り当てられた時間は「1時間／週」です。残りの時間は授業の復習や課題克服のための時間に充てましょう。

NN志望校別コースを受講されない方

1) 漢字テスト・言語知識テストへ向けた学習[45分]

『漢字とことば6年下』より指定された範囲に取り組み、次回の授業冒頭で実施する確認テストへ向けた学習を進めましょう。

2) 文章読解問題1題[45分]

『予習シリーズ6年下(有名校対策)』の文章読解問題のうち、授業で扱わない問題があればそちらに取り組みます。

※通常授業の国語の宿題に割り当てられた時間は「1.5時間／週」です。残りの時間は授業の復習や課題克服のための時間に充てましょう。

学習上の留意点

漢字・言語知識

授業内で実施する確認テストへ向けた家庭学習を進めることで十分な学習量を積むことができますが、その際に間違えたものはこの機会に確実に覚えていくことが重要です。「ここで覚え残したものと次に出会うのは入試本番かもしれない」という緊張感を持って学習を進めましょう。不安なものがある場合は、漢字ならば4年生・5年生の『漢字とことば』に戻って、トメ・ハネ・ハライや字のバランス、そして筆順なども丁寧に確認したいものです。また、言語知識についても、中学入試において「出題されない」と言い切れる単元はありませんので、あらゆる単元を抜け・漏れなくひと通りマスターするように心掛けてください。

入試過去問題演習

ご家庭で志望校の入試問題に取り組む際には、次の点に注意してください。①解答用紙は可能な限り原寸大でご用意ください。②必ず入試本番と同じ時間で実施しましょう。「時間配分」を知ることも大切な目的のひとつですので、時間を長くしたり短くしたりしてしまうとその効果が得られません。③記号選択問題や抜き出し問題は自分で採点しましょう。また、記述問題についても最終的には自分で採点できるようになりたいのですが、判断に迷うものは担当講師に任せていただいても構いません。④間違えてしまった問題については、原則全問、正答とその導き方を確認したいものです。ただし、丁寧に解き直す作業については、全問行う必要はありません。記述問題を中心とした重要なもののみに絞り、30分程度に収まる範囲内で解き直しましょう。⑤過去問演習をする目的は、その問題で点数を取るものではありません。過去の出題傾向を知ることで、来年の入試に対応する力を養ってこそ、過去問演習をする意味が生まれます。点数に一喜一憂するのではなく、「大問構成」「出題されやすい文種やテーマ」「頻出の設問パターン」などを分析することで、「試験時間内にどうやって『合格点』をもぎ取っていくのか」という明確な戦略を練りましょう。そして、それを次に演習する際に生かして、自分の感覚に刻み込んでいくことが重要です。

入試直前期の学習

冬期から1月にかけては、入試本番を目の前にした焦りから、「何をしたらよいかわからない」という事態に陥りがちです。引き続き、実戦のなかでの得点力を伸ばしていくことも重要ですが、むしろこの時期に「基本」に立ち返ることも大切にしてください。改めて、「物語・小説を読むときにはどのようなことを意識するのか」や「指示語の問題はどのように処理するのか」といった、これまでに身につけてきた作業を丁寧に振り返ることが、本番での「あと1点」をもぎ取る力になるはずです。



算数の後期の学習（SSクラス）

学習目標

6年生の夏、すなわち難関中受験に必要な解法・知識を身につけるための時期が終わると、次はいよいよ身につけたことを得点に結び付ける段階にシフトします。夏期講習会までの時期は、入試で頻出な問題の解法習得を目的とし、標準的な難度の問題や小問タイプの問題を中心に学習してきましたが、後期は、設問のつながりを意識したり、条件が複雑な問題に対して筋道を立てて解いたりすることを目的として、大問形式の問題を中心に学習していきます。今後実施される合不合判定テストや学校別模試では、出題範囲のない総合的な問題が中心となりますが、定期的な実施される「SSクラス統一テスト」により、約1か月間の習熟度を確認していきます。

後期授業カリキュラム

		授業①	授業②
9月	第1週	休講日	合不合判定テスト対策
	第2週	下2回 数・規則・論理(1)	下2回 数・規則・論理(1)
	第3週	下3回 図形(1)	下3回 図形(1)
	第4週	下4回 文章題(2)	下4回 文章題(2)
	第5週 第1週	下5回 数・規則・論理(2)	合不合判定テスト対策
10月	第2週	SSクラス統一テスト	下6回 図形(2)
	第3週	下6回 図形(2)	下7回 文章題(3)
	第4週	下7回 文章題(3)	下8回 数・規則・論理(3)
	第5週	下8回 数・規則・論理(3)	下9回 図形(3)
	第5週 第1週	SSクラス統一テスト	合不合判定テスト対策
11月	第2週	SSクラス統一テスト	合不合判定テスト対策
	第3週	下10回 文章題(4)	下10回 文章題(4)
	第4週	下11回 数・規則・論理(4)	下11回 数・規則・論理(4)
	第5週 第1週	SSクラス統一テスト	合不合判定テスト対策
	第2週	下12回 図形(4)	下12回 図形(4)
12月	第3週	下13回 入試直前対策(1)	下13回 入試直前対策(1)
	第4週	下14回 入試直前対策(2)	休講日
	第5週	下15回 入試直前対策(3)	下15回 入試直前対策(3)
1月	第2週	休講日	総合演習
	第3週	休講日	総合演習
	第4週	総合演習	総合演習
	第5週	総合演習	総合演習

※標準的なSSクラスを想定し、月曜日と金曜日に授業を実施している場合を例にしています。クラス状況や授業実施曜日によって、カリキュラムが異なる場合があります。

教材の紹介

予習シリーズ6年下(難関校対策)

授業用教材になります。各回の前半は一般的な入試問題にある小問集合を意識した「一行問題ベストセレクション」、後半は「標準演習」「応用演習」の2段階でレベル分けされた大問形式の問題が並びます。

演習問題集6年下(難関校対策)

SSクラスの宿題用教材です。6年上までと異なり、テーマごとに入試問題が並んでいます。難度設定が★、★★、★★★の3段階で設定されており、★、★★がおもな宿題です。6SS1クラスでは、★★、★★★が宿題になります。

上位校への算数STANDARD

夏期講習会で学習した難関受験校の典型問題集です。後期以降もその定着を確認するために繰り返し演習して、知識や技術を身につけましょう。授業冒頭で、その定着を確認する「ポイントチェック」を実施します。

ポイントチェックADVANCE

授業冒頭で実施する小テストで、夏期講習会で学習した『上位校への算数STANDARD』の定着度を確認します。夏の復習にあたりますから80点以上を目指しましょう。

上位校への算数ADVANCE

予習シリーズや演習問題集よりもさらに難度の高いプリント教材です。最上位校で出題される初見の問題や思考系の問題です。6SS1などの一部のクラスで扱います。

宿題の進め方

NN志望校別コースを受講される方

1) 授業の復習[20分]

ポイントチェックや授業内の演習のなかで、解き方が思い浮かばなかったり、手順・方針を誤ったりした問題の解き直しをしましょう。

2) 『演習問題集』★[80分]

週2回の授業のうち、1回目の授業の宿題です。演習問題集の★の問題が宿題です。式や図を書くスペースが少ないのでノートに演習しましょう。

3) 『演習問題集』★★[80分]

週2回の授業のうち、2回目の授業の宿題です。演習問題集の★★の問題が宿題です。式や図を書くスペースが少ないのでノートに演習しましょう。

4) 『上位校への算数STANDARD』[60分]

指定された問題をノートに演習しましょう。「ポイントチェック」という小テストで、その定着度を確認します。

NN志望校別コースを受講されない方

1) 授業の復習[20分]

ポイントチェックや授業内の演習のなかで、解き方が思い浮かばなかったり、手順・方針を誤ったりした問題の解き直しをしましょう。

2) 『演習問題集』★[80分]

週2回の授業のうち、1回目の授業の宿題です。演習問題集の★の問題が宿題です。式や図を書くスペースが少ないのでノートに演習しましょう。

3) 『演習問題集』★★[80分]

週2回の授業のうち、2回目の授業の宿題です。演習問題集の★★の問題が宿題です。式や図を書くスペースが少ないのでノートに演習しましょう。

4) 『上位校への算数STANDARD』[120分]

指定された問題をノートに演習しましょう。NN志望校別コースに通われていない方は、確認問題まで宿題になります。「ポイントチェック」という小テストで、その定着度を確認します。

学習上の留意点

入試過去問題演習

- ①準備…解答用紙はできるだけ原寸大でご用意ください。
- ②演習…入試本番と同じ時間で実施し、時間の使い方に慣れることが大切です。合不合判定テストのような模試とは違い、必ずしも大問1番から解くことが正解とは限りません。問題全体を見渡し、解き方がすぐに思い浮かぶ問題から手をつけるといった工夫も入試本番では必要になります。
- ③採点…自分で採点しましょう。途中式や作図の採点に困る場合は担当講師に相談してください。
- ④直し…採点後、すぐに解説を見るのではなく、間違えた問題の原因を考えましょう。おそらく、そのうちのいくつかは解説を見る前に解決できるはずで、そのうえで解説を見ながら間違えた原因を次のように3段階に分けてみましょう(解答用紙の解答欄に青ペンでマークすると良いでしょう)。

○⇒解説を見る前に間違いに気付けた問題

△⇒解説を見て納得できた問題

×⇒解説を見ても理解ができない、もしくは理解が曖昧な問題

このうち、○は問題の読み違いや計算ミスによるもの、△は自分がすでに知っている解法や知識のなかで解ける問題です。この2種類が入試本番で得点に結びつく可能性のある問題と言えます。この2種類の問題に正答することで合格点に達するのであれば、あとは精度を上げていけば良いので問題演習を重ねていきましょう。まずは、○と△の問題を中心に自分の力で解き直しをしましょう。一方で×の問題は理解が曖昧な状態で解き直ししたり、解説を書き写してみたりしても力にはなりません。担当講師に質問をして解決させましょう。

初見問題への対応力・思考力

解法や知識を定着させるために何度も同じ問題を解くことで、合格点を取ることができる中学校もあります。ただし、最上位校となると、解いたことのある問題が出題されることはむしろ稀で、はじめて目にする問題と対峙しなくてはならない場合の方が多いものです。授業内のチェックテストや合不合判定テストである程度の得点が取れるようになったけれども、学校別のオープン模試や過去問でなかなか得点が伸びないのであれば、取り組む問題をシフトチェンジする必要があります。NNの授業などを通して良質な難問に積極果敢に取り組み、筋道立てて解く経験を多く踏むことで初見問題や難問への対応力がついていきます。



算数の後期の学習（SB・SAクラス）

学習目標

夏期講習会を通じて、中学入試に必要な解法・知識をひと通り学習しました。後期は夏に学習した内容を得点に結びつけることが目標です。6年生前期までは週に1つの単元の学習を進めてきましたが、9月以降の学習は『予習シリーズ』を使いつつも早稲田アカデミーオリジナルのカリキュラムで学習します。夏の学習から飛躍的に難度を上げるのではなく、まだ定着の不十分な9月と10月の2か月をかけて、『予習シリーズ6年下』のうち標準的な難度の内容を全分野学習します。そのうえで11月と12月では、9月・10月と同じ単元について、より発展的な問題を扱っていきます。イメージとしては、層を何層にも重ね合わせ、定着度をより強固にしていくようなものです。入試本番までの残り半年間で、段階的に学習を進め、第一志望校合格を目指します。

後期授業カリキュラム

		授業①	授業②
9月	第1週	休講日	合不合判定テスト対策
	第2週	下2回 数・規則・論理(1)	下2回 数・規則・論理(1)
	第3週	下3回 図形(1)	下3回 図形(1)
	第4週	下4回 文章題(2)	下4回 文章題(2)
	第5週 第1週	下5回 数・規則・論理(2)	下5回 数・規則・論理(2)
10月	第2週	合不合判定テスト対策	下6回 図形(2)
	第3週	下6回 図形(2)	下7回 文章題(3)
	第4週	下7回 文章題(3)	下8回 数・規則・論理(3)
	第5週	下8回 数・規則・論理(3)	下9回 図形(3)
	第5週 第1週	合不合判定テスト対策	下12回 図形(4)
11月	第2週	下13回 入試直前対策(1)	下13回 入試直前対策(1)
	第3週	下14回 入試直前対策(2)	下14回 入試直前対策(2)
	第4週	下15回 入試直前対策(3)	休講日
	第2週	休講日	下15回 入試直前対策(3)
	第3週	休講日	総合演習
12月	第4週	総合演習	総合演習
	第5週	総合演習	総合演習
1月	第2週	総合演習	総合演習
	第3週	総合演習	総合演習
	第4週	総合演習	総合演習
	第5週	総合演習	総合演習

※月曜日と金曜日に授業を実施している場合を例にしています。クラス状況や授業実施曜日によって、カリキュラムが異なる場合があります。

教材の紹介

予習シリーズ6年下(有名校対策)

授業用教材になります。各回の前半は、一般的な入試問題にある小問集合を意識した「一行問題ベストセクション」、後半は「基本演習」「実戦演習」の2段階でレベル分けされた大問形式の問題が並びます。

演習問題集6年下(有名校対策)

宿題用教材です。6年上までと異なり、テーマごとに入試問題が並んでいます。難度設定が★、★★の2段階で設定されています。SAクラスは★が、SBクラスは★、★★が宿題です。

バックアップテキスト

夏期講習会で学習した教材です。後期以降もその定着を確認するために繰り返し演習して、知識や技術を身につけましょう。授業冒頭で、その定着を確認する「ポイントチェック」を実施します。

ポイントチェックSTANDARD／BASIC

授業冒頭で実施する小テストで、夏期講習会で学習した『バックアップテキスト』の定着度を確認します。夏の復習にあたりますから80点以上を目指しましょう。

計算6年下

計算力の強化といくつかの小問が掲載された宿題用教材です。9月1日から翌年の1月31日まで153日分あります。1日1ページずつ決まった時間に行っていくようにしましょう。「チャレンジ問題」は難度が高めです。したがって、クラスにより取り組む問題番号を担当講師から指示させていただきます。

宿題の進め方

SBクラスの方

1)『演習問題集』★[60分]

週2回の授業のうち、1回目の授業の宿題です。演習問題集の★の問題が宿題です。式や図を書くスペースが少ないのでノートに演習しましょう。

2)『演習問題集』★★[80分]

週2回の授業のうち、2回目の授業の宿題です。演習問題集の★★の問題が宿題です。式や図を書くスペースが少ないのでノートに演習しましょう。

3)『計算』[100分(1週間分)]

1日1ページ(1)～(6)を演習しましょう。直接書きこんで構いません。丸付けを含めて1日15分程度が実施時間の目安です。

4)『バックアップテキスト』[60分]

指定された問題をノートに演習しましょう。「ポイントチェック」という小テストで、その定着度を確認します。なお、「NN志望校別コース」を受講されているお子様は、この宿題の代わりにNNから指示される宿題を行ってください。

SAクラスの方

1)『演習問題集』★[120分]

演習問題集の★の問題が宿題です。問題量が多いので、週2回に分けて演習します。式や図を書くスペースが少ないのでノートに演習しましょう。

2)『計算』[100分(1週間分)]

1日1ページ(1)～(4)を演習しましょう。直接書きこんで構いません。丸付けを含めて1日15分程度が実施時間の目安です。

3)『バックアップテキスト』[80分]

指定された問題をノートに演習しましょう。「ポイントチェック」という小テストで、その定着度を確認します。

学習上の留意点

入試過去問題演習

- ①準備…解答用紙はできるだけ原寸大でご用意ください。
- ②演習…入試本番と同じ時間で実施し、時間の使い方に慣れることが大切です。合不合判定テストのような模試とは違い、必ずしも大問1番から解くことが正解とは限りません。問題全体を見渡し、解き方がすぐに思い浮かぶ問題から手をつけるといった工夫も入試本番では必要になります。
- ③採点…自分で採点しましょう。途中式や作図の採点に困る場合は担当講師に相談してください。
- ④直し…採点後、すぐに解説を見るのではなく、間違えた問題の原因を考えましょう。おそらく、そのうちのいくつかは解説を見る前に解決できるはずで、そのうえで解説を見ながら間違えた原因を次のように3段階に分けてみましょう(解答用紙の解答欄に青ペンでマークすると良いでしょう)。

○⇒解説を見る前に間違いに気付けた問題

△⇒解説を見て納得できた問題

×⇒解説を見ても理解ができない、もしくは理解が曖昧な問題

このうち、○は問題の読み違いや計算ミスによるもの、△は自分がすでに知っている解法や知識のなかで解ける問題です。この2種類が入試本番で得点に結びつく可能性のある問題と言えます。この2種類の問題に正答することで合格点に達するのであれば、あとは精度を上げていけば良いので問題演習を重ねていきましょう。まずは、○と△の問題を中心に自分の力で解き直しをしましょう。一方で×の問題は理解が曖昧な状態で解き直ししたり、解説を書き写してみたりしても力にはなりません。担当講師に質問をして解決させましょう。

合否を決めるポイント

中学入試では算数の出来不出来が、合否に大きな影響を及ぼします。一方で、その捉え方には注意が必要です。算数の得点を伸ばすために、難問に取り組んだり、いろいろな教材に取り組んだりする方もいますが、多くの中学校では算数の難問が解けること以上に、本来できるはずの問題を確実に正答できているかどうかで合否が決まるものです。例えば各種模試で志望校に対してある程度合格が見込める成績をおさめることができていれば、難問に積極的に取り組み、より算数のアドバンテージを広げることも有効でしょう。ただし、なかなか安心できる数字が取れていないのであれば、足元を固めることが最優先です。夏に総復習を終えたとしても、それがそのまま得点に結びつくお子様の方が少ないものです。9月以降も夏のテキストに立ち返って、もう一度苦手な分野の解法をチェックするなど、周りが正解している部分でマイナスをつくらないことが大切です。



社会の後期の学習（SSクラス）

学習目標

9月からは入試での得点力を強化するために、知識事項の定着と実戦的な問題演習を行います。さらに最新の入試動向を踏まえ、今後の入試で出題が予想されるテーマに関して、これまでとは違ったアプローチで内容を深く掘り下げて学習に取り組み、入試に向けたアドバンテージをつくります。授業の冒頭で行う知識事項のチェックテストの出題内容と各回の学習内容をリンクさせることで、テストに向けて事前に覚えた知識事項を土台として、それらが出題された入試レベルの実戦的な問題を演習することで解答能力を高めます。また、ご自身の志望校については、NN志望校別コースやご家庭での過去問演習を通して、それぞれの学校の入試問題の出題傾向を把握し、合格点が取れるよう指導していきます。

後期授業カリキュラム

	授業回数	予習シリーズの回数	学習内容	確認テスト出題内容	
				ポイントチェックテスト（四科のまとめ）	統計Bookチェックテスト
9月	1	第2回	人物でみる歴史	歴史上の人物	—
	2	第3回	日本の政治	国会・内閣・裁判所	—
	3	第4回	歴史をささえた民衆	社会経済史	—
	4	第5回	川からみる日本の地理	河川・森林と水	—
10月	5	第6回	くらしをささえる産業	農業・水産業	地図・気候①
	6	第7回	文化のうつりかわり	文化史	人口と都道府県①
	7	第8回	戦いの歴史	歴史地図	人口と都道府県②
	8	第9回	日本と世界のむすびつき	貿易	農業①
11月	9	—	合不合格判定テスト第5回対策	地形図	農業②
	10	第10回	今日の国際社会と日本の課題	国際紛争・核兵器・世界の地形・国々	農業③・林業
	11	第11回	未来にうけつぐ世界遺産	国際連盟・国際連合・世界遺産	水産業
	12	—	合不合格判定テスト第6回対策	交通・通信	資源・エネルギー
12月	13	第12回	交通の昔と今	工業	工業①
	14	第13回	入試直前対策(1)～地理～	日本の気候・資源とエネルギー	工業②
	15	第14回	入試直前対策(2)～歴史～	歴史史料①	貿易①
	冬①	冬期講習会		公害問題と循環型社会・環境問題	貿易②
—	冬②			憲法・人権	貿易③
	冬③			歴史史料②	地図・気候②
	冬④			地方自治・選挙・社会保障制度	日本と世界
1月	16	第15回	入試直前対策(3)～政治～	外交史	財政
	17	—	入試直前対策(4)	覚えておきたい年とできごと	まとめ①
	18	—	入試直前対策(5)	主な条文	まとめ②

※ポイントチェックテスト・統計Bookチェックテストは、冬期講習会にも実施します。

教材の紹介

予習シリーズ6年下（難関校対策）

おもに授業で使用する問題演習用のテキストです。

演習問題集6年下（難関校対策）

知識事項のまとめと、実際に出題された難度の高い入試問題で構成されています。解説が充実しているため、正解できなかった内容についても復習しやすくなっています。必要に応じて授業内で使用する場合があります。

四科のまとめ

知識事項の定着を図るための教材です。地理・歴史・政治・国際分野に至るまで幅広く扱っています。

ポイントチェックテスト（プリント）

毎回の授業冒頭でチェックテスト（ポイントチェックテスト）を行います。『四科のまとめ』の中の決められた出題範囲となるページの問題を解いて、テストでは漢字で解答できるように準備します。

統計Book

入試で出題頻度の高い統計資料をまとめた教材で、10月以降に使用します。

統計Bookチェックテスト（プリント）

10月から実施する統計資料を扱ったテストです。入試で差がつきやすい内容を問題として知識事項の定着を強化します。

宿題の進め方

NN志望校別コースを受講される方

1)『四科のまとめ』『統計Book』※ 知識事項暗記[60分]

今回のテスト(ポイントチェックテスト)の出題範囲となる『四科のまとめ』の該当ページの設問を解いて、知識の定着を図ります。テストは漢字指定で実施しますので、漢字で正確に書けるように取り組みましょう。

2)授業の復習+『演習問題集6年下(難関校対策)』問題演習[60分]

間違えた問題や解けなかった問題については解説を読んでポイントを確認しておきましょう。

※10月より使用

NN志望校別コースを受講されない方

1)『四科のまとめ』『統計Book』※ 知識事項暗記[90分]

今回のテスト(ポイントチェックテスト)の出題範囲となる『四科のまとめ』の該当ページの設問を解いて、知識の定着を図ります。テストは漢字指定で実施しますので、漢字で正確に書けるように取り組みましょう。

2)授業の復習+『演習問題集6年下(難関校対策)』問題演習+『四科のまとめ』苦手知識事項の暗記[90分]

宿題にする問題は、『演習問題集』の中から指定して宿題として課します。間違えた問題や解けなかった問題については解説を読んでポイントを確認しておきましょう。『四科のまとめ』については、自分が苦手だと思うところから計画的に取り組むようにしましょう。

※10月より使用

学習上の留意点

入試過去問題演習

ご家庭で志望校の入試過去問題演習に取り組む際には、本番と同じ時間で実施しましょう。社会の入試問題は、難度の低い解きやすい設問から順番に並んでいるとは限らないため、難しい設問は後回しにするなど、時間配分に注意しながら解くことが重要です。

また、社会の過去問は年度が古くなるほど、当時の受験生であれば正解しやすかった時事問題や当時の統計に基づいた出題が多くなります。したがって、年度の新しい問題ほど、当時の受験生に比べて不利な点が少なくなり、実際の入試でどれくらいの得点が取れるかどうかを占ううえで利用価値が高いということになります。過去問の冊子に載っている一番古い年度から始める必要はありませんが、最新年度の問題については最初に解くのではなく、ある程度その学校の出題傾向が把握できてから、あるいは古い年度の過去問を解いて手応えをつかんでから解くことをおすすめします。出題当時の時事問題や当時の統計に基づいた問題については得点計算の対象から外したり、それらの問題を除いた得点率を計算したりするようにしましょう。入試では設問の中に漢字指定の文言がない場合でも、問題の表紙に記載があったり、条件の記載がないのに不正解・減点としたりする場合があります。普段の学習から漢字で正しく解答することを心掛けましょう。文章による記述式の設問で採点に困る問題があれば担当講師にご相談ください。

時事問題

社会の入試では、時事問題が多くの学校で出題されています。時事問題については、普段の授業でも折を見て触れる場合がありますが、早稲田アカデミーでは、冬期講習会で集中的に扱います。時事問題は多くの場合、時事問題だけを立て続けに出題するのではなく、時事問題を切り口として、関連の深い地理・歴史・公民の学習内容へと派生する形で出題されます。断片的に覚えるのではなく、それまでの社会の授業で学習してきた内容と結びつけて覚えていくことが重要です。特に、法律の制定や改正などの私たちの暮らしに身近な話題や、選挙、サミットなどの国際会議、世界遺産の登録などは要注意です。また、万博やオリンピックに関して、それを意識したスポーツや外国人観光客に関する問題などはすでにこれまでの入試で出題されています。

時事問題が出題されるとしても、それ自体が入試問題の配点で高い比率を占める訳ではありません。特に直前期は時事問題の学習に集中的に取り組むことで、地理・歴史・公民など入試でメインとなる部分の学習が疎かになってしまいがちです。時事問題の学習だけに傾注しすぎないようバランスよく学習に取り組むことが重要です。

模試の復習

後期以降は模擬試験が頻繁に実施されます。全ての設問を詳細に復習する時間を確保することは難しいかもしれませんが、一方で解きっぱなしで復習ができないのでは効果がありません。時間に余裕のない場合は、正答率の資料を活用することが重要です。特に正答率の高い設問でのミスがあれば、優先的に復習していただいても良いでしょう。模擬試験には入試で出題が予想される時事問題が出題されたり、これまでに解いたことのない初見の問題も多く出題されたりすることがあります。きちんと覚えていたのに、切り口を変えられたことで正解できない場合もあるでしょう。正解できなかった原因を分析し、同じ原因のミスを減らすことで今後の模試や過去問演習に役立てていくことが重要です。



社会の後期の学習（SB・SAクラス）

学習目標

9月からは入試での得点力を強化するために、知識事項の定着を強化しつつ、実戦的な問題に対する解答能力も高めていきます。夏期講習会までの学習では知識事項の定着について一定の成果をあげることが要求されますが、量が膨大なため、高い精度で定着させることは決して簡単ではありません。後期以降も引き続き知識事項の定着に取り組むつつ、実戦的な解答能力を高めるための学習の比重を少しずつ高めていくことが重要です。授業では毎回出題範囲を決めて知識事項のチェックテストを実施するとともに、入試を意識した問題演習も行います。また、ご自身の志望校については、ご家庭での過去問演習を通して、それぞれの学校の入試問題の出題傾向を把握し、合格点が取れるよう指導していきます。

後期授業カリキュラム

	授業回数	予習シリーズの回数	学習内容	確認テスト出題内容	
				ポイントチェックテスト（四科のまとめ）	統計Bookチェックテスト
9月	1	第2回	人物でみる歴史	歴史上の人物	—
	2	第3回	日本の政治	国会・内閣・裁判所	—
	3	第4回	歴史をささえた民衆	社会経済史	—
	4	第5回	川からみる日本の地理	河川・森林と水	—
10月	5	第6回	くらしをささえる産業	農業・水産業	地図・気候①
	6	第7回	文化のうつりかわり	文化史	人口と都道府県①
	7	第8回	戦いの歴史	歴史地図	人口と都道府県②
	8	第9回	日本と世界のむすびつき	貿易	農業①
11月	9	—	合不合格判定テスト第5回対策	地形図	農業②
	10	第10回	今日の国際社会と日本の課題	国際紛争・核兵器・世界の地形・国々	農業③・林業
	11	第11回	未来にうけつぐ世界遺産	国際連盟・国際連合・世界遺産	水産業
	12	—	合不合格判定テスト第6回対策	交通・通信	資源・エネルギー
12月	13	第12回	交通の昔と今	工業	工業①
	14	第13回	入試直前対策(1)～地理～	日本の気候・資源とエネルギー	工業②
	15	第14回	入試直前対策(2)～歴史～	歴史史料①	貿易①
—	冬①	冬期講習会		公害問題と循環型社会・環境問題	貿易②
	冬②			憲法・人権	貿易③
	冬③			歴史史料②	地図・気候②
	冬④			地方自治・選挙・社会保障制度	日本と世界
1月	16	第15回	入試直前対策(3)～政治～	外交史	財政
	17	—	入試直前対策(4)	覚えておきたい年とできごと	まとめ①
	18	—	入試直前対策(5)	主な条文	まとめ②

※ポイントチェックテスト・統計Bookチェックテストは、冬期講習会にも実施します。

教材の紹介

予習シリーズ6年下（有名校対策）

授業で使用するおもに問題演習で使用するテキストです。地理・歴史・公民の分野別単元、出題形式ごとのテーマ別演習、入試直前対策、過去の合不合格判定テストが掲載されています。

演習問題集6年下（有名校対策）

おもに宿題で使用する問題演習用のテキストです。知識事項のまとめと、実際に出題された入試問題や入試問題の一部改題になります。解説も充実しているため、正解できなかった内容についても復習しやすくなっています。

四科のまとめ

知識事項の定着を図るための教材です。地理・歴史・政治・国際分野に至るまで幅広く扱っています。

ポイントチェックテスト（プリント）

毎回の授業冒頭でチェックテスト（ポイントチェックテスト）を行います。『四科のまとめ』の中の決められた出題範囲となるページの問題を解いて、テストでは漢字で解答できるように準備します。

統計Book

入試で出題頻度の高い統計資料をまとめた教材で、10月以降に使用します。

統計Bookチェックテスト（プリント）

10月から実施する統計資料を扱ったテストです。入試で差がつきやすい内容を出題して知識事項の定着を強化します。

宿題の進め方

NN志望校別コースを受講される方

1)『四科のまとめ』『統計Book』※ 知識事項暗記[60分]

今回のテスト(ポイントチェックテスト)の出題範囲となる『四科のまとめ』の該当ページの設問を解いて、知識の定着を図ります。テストは漢字指定で実施しますので、漢字で正確に書けるように取り組みましょう。

2)授業の復習+『演習問題集6年下(有名校対策)』問題演習[60分]

間違えた問題や解けなかった問題については解説を読んでポイントを確認しておきましょう。

※10月より使用

NN志望校別コースを受講されない方

1)『四科のまとめ』『統計Book』※ 知識事項暗記[90分]

今回のテスト(ポイントチェックテスト)の出題範囲となる『四科のまとめ』の該当ページの設問を解いて、知識の定着を図ります。テストは漢字指定で実施しますので、漢字で正確に書けるように取り組みましょう。

2)授業の復習+『演習問題集6年下(有名校対策)』問題演習+『四科のまとめ』苦手知識事項の暗記[90分]

宿題にする問題は、『演習問題集』の中から指定して宿題として課します。間違えた問題や解けなかった問題については解説を読んでポイントを確認しておきましょう。『四科のまとめ』については、自分が苦手だと思うところから計画的に取り組むようにしましょう。

※10月より使用

学習上の留意点

入試過去問題演習

ご家庭で志望校の入試過去問題演習に取り組む際には、本番と同じ時間で実施しましょう。社会の入試問題は、難度の低い解きやすい設問から順番に並んでいるとは限らないため、難しい設問は後回しにするなど、時間配分に注意しながら解くことが重要です。

また、社会の過去問は年度が古くなるほど、当時の受験生であれば正解しやすかった時事問題や当時の統計に基づいた出題が多くなります。したがって、年度の新しい問題ほど、当時の受験生に比べて不利な点が少なくなり、実際の入試でどれくらいの得点が取れるかどうかを占ううえで利用価値が高いということになります。過去問の冊子に載っている一番古い年度から始める必要はありませんが、最新年度の問題については最初に解くのではなく、ある程度その学校の出題傾向が把握できてから、あるいは古い年度の過去問を解いて手応えをつかんでから解くことをおすすめします。出題当時の時事問題や当時の統計に基づいた問題については得点計算の対象から外したり、それらの問題を除いた得点率を計算したりするようにしましょう。入試では設問の中に漢字指定の文言がない場合でも、問題の表紙に記載があったり、条件の記載がないのに不正解・減点としたりする場合があります。普段の学習から漢字で正しく解答することを心掛けましょう。文章による記述式の設問で採点に困る問題があれば担当講師にご相談ください。

時事問題

社会の入試では、時事問題が多く学校の出題されています。時事問題については、普段の授業でも折を見て触れる場合がありますが、早稲田アカデミーでは、冬期講習会で集中的に扱います。時事問題は多くの場合、時事問題だけを立て続けに出題するのではなく、時事問題を切り口として、関連の深い地理・歴史・公民の学習内容へと派生する形で出題されます。断片的に覚えるのではなく、それまでの社会の授業で学習してきた内容と結びつけて覚えていくことが重要です。特に、法律の制定や改正などの私たちの暮らしに身近な話題や、選挙、サミットなどの国際会議、世界遺産の登録などは要注意です。また、万博やオリンピックに関して、それを意識したスポーツや外国人観光客に関する問題などはすでにこれまでの入試で出題されています。

時事問題が出題されるとしても、それ自体が入試問題の配点で高い比率を占める訳ではありません。特に直前期は時事問題の学習に集中的に取り組むことで、地理・歴史・公民など入試でメインとなる部分の学習が疎かになってしまいがちです。時事問題の学習だけに傾注しすぎないようバランスよく学習に取り組むことが重要です。

模試の復習

後期以降は模擬試験が頻繁に実施されます。全ての設問を詳細に復習する時間を確保することは難しいかもしれませんが、一方で解きっぱなしで復習ができないのでは効果がありません。時間に余裕のない場合は、正答率の資料を活用することが重要です。特に正答率の高い設問でのミスがあれば、優先的に復習していただいても良いでしょう。模擬試験には入試で出題が予想される時事問題が出題されたり、これまでに解いたことのない初見の問題も多く出題されたりすることがあります。きちんと覚えていたのに、切り口を変えられたことで正解できない場合もあるでしょう。正解できなかった原因を分析し、同じ原因のミスを減らすことで今後の模試や過去問題演習に役立てていくことが重要です。



理科の後期の学習（SSクラス）

学習目標

9月からは実際の入試問題で得点するために、応用問題や実戦的な問題の演習を中心に学習を進めます。初見問題を考えて解く時間もとって、難関校の入試に対応できる力を身につけます。家庭学習で行う入試過去問題演習でそれぞれの志望校の対策を進めるとともに、授業で新傾向の問題や初見問題への対応力を磨きます。NN志望校別コースでは特定の学校に特化した学習を行うので、校舎ではさまざまなパターンの問題に触れておきます。同時に入試に必要な知識の定着度を上げるため、知識の確認テストを実施します。このテストは知識の抜け漏れを確認し、定着を図ることが目的です。正確な知識を身につけることで、問題文の意図を汲み取りやすくなり、細かいミスを減らすことにつながります。

後期授業カリキュラム

	授業回数	予習シリーズの回数	学習内容	確認テスト出題内容	
				マスターテキスト知識編確認テスト	チェックテスト10
9月	1	第2回	地学①(天体)	植物①	①
	2	第3回	物理①(力学)	植物②	②
	3	第4回	化学①(水溶液)	植物③	③
	4	第5回	生物②(ヒト)	昆虫	④
10月	5	第6回	地学②(大地)	動物	⑤
	6	第7回	物理②(電気)	人体	⑥
	7	第8回	化学②(気体)	生物と環境・環境	⑦
	8	第9回	生物③(動物)	天体①	⑧
11月	9	—	合不合判定テスト第5回対策	天体②	⑨
	10	第10回	地学③(気象)	天体③	⑩
	11	第11回	物理③(光と音)	天気と気象①	⑪
	12	—	合不合判定テスト第6回対策	天気と気象②	⑫
12月	13	第12回	化学③(燃焼・熱)	大地の変化	⑬
	14	第13回	入試直前対策(1)	化学	⑭
	15	第14回	入試直前対策(2)	燃焼・熱と状態変化	⑮
—	冬①	冬期講習会		実験器具	⑯
	冬②			電気と磁界	⑰
	冬③			音と光	⑱
	冬④			運動と力学	⑲
1月	16	第15回	入試直前対策(3)		⑳
	17	—	入試直前対策(4)		㉑
	18	—	入試直前対策(5)		㉒

教材の紹介

マスターテキスト演習編ADVANCE

応用力を伸ばし、初見問題に対応するために必要な思考力を伸ばしていくための教材です。おおむね各回のカリキュラムに合わせ、3題ずつで構成されています。

マスターテキスト知識編確認テストADVANCE

『マスターテキスト知識編』は入試に必須の知識をまとめた教材です。前期に続き、範囲を指定して確認テストを実施するため、その暗記が宿題になります。

チェックテスト10

授業冒頭で実施する、4択問題が10問並ぶ基本知識の確認テストです。事前の範囲指定はなく、基本知識の定着度を抜き打ちで確認していきます。

予習シリーズ6年下(難関校対策)

問題演習用のテキストです。主に宿題で使用します。

演習問題集6年下(難関校対策)

今までに学習した重要事項を確認するテキストです。主に宿題で使用します。

マスターテキスト実戦編

入試直前対策授業で使用する実戦力向上のためのSS・SB・SAクラス共通の演習用問題冊子です。各クラスが必要な問題を選択して演習します。入試の直前期に得点力の向上を図り、合格の可能性を上げるための教材です。

宿題の進め方

NN志望校別コースを受講される方

1)『マスターテキスト知識編』暗記[30分]

『マスターテキスト知識編』の解説をよく読んで、次回のテスト範囲に指定された知識の定着を図ります。解説には赤字で解答が書かれており、赤フィルムを使って学習することができます。また、周りに書かれた補足説明は理解を深めるのに有効です。

2)授業の復習+『予習シリーズ6年下(難関校対策)』・『演習問題集6年下(難関校対策)』問題演習[90分]

専用のノートに解答だけでなく、考えるのに使った式や表なども書き込みます。間違えた問題や解けなかった問題の見直しが重要です。授業の復習と合わせて解くためのポイントを確認しておきましょう。

NN志望校別コースを受講されない方

1)『マスターテキスト知識編』暗記[30分]

『マスターテキスト知識編』の解説をよく読んで、次回のテスト範囲に指定された知識の定着を図ります。解説には赤字で解答が書かれており、赤フィルムを使って学習することができます。また、周りに書かれた補足説明は理解を深めるのに有効です。

2)授業の復習+『予習シリーズ6年下(難関校対策)』・『演習問題集6年下(難関校対策)』問題演習[150分]

専用のノートに解答だけでなく、考えるのに使った式や表なども書き込みます。間違えた問題や解けなかった問題の見直しが重要です。授業の復習と合わせて解くためのポイントを確認しておきましょう。

学習上の留意点

入試過去問題演習

理科の入試問題には計算や記述問題、実験や観察の結果から答えを導く問題など、学校ごとに特色があります。単元で見ても、植物を中心に出题する学校や、電流と力学を交互に出題する学校などもあり、志望校によって必要な学習が大きく異なります。入試演習では、まず出題傾向を押さえ、残りの期間にどのような学習をすれば良いのかというゴールを明確にすることが重要です。その学校に必要な力を見極め、足りない部分については課題の克服に努め、改めて入試演習で到達度を確認していくという学習サイクルが理想的です。特に志望校別に特訓を行うNN志望校別コース以外の学校では、入試演習を活用することがより重要になるでしょう。

過去の入試問題では、入試が行われた当時の時事問題が出題されていることがあります。こういった問題は見直しに時間をかける必要はありません。その分の点数は引いた形で考えましょう。また、難関校の入試問題は、満点はなかなかとれないものです。まずは合格者平均点、理科が苦手であれば受験者平均点が確実にとれるように解き直しをしておきましょう。

時事問題

理科の入試では、時事的な内容をテーマにした問題がたびたび出題されます。早稲田アカデミーでは入試直前の冬期講習会で時事問題を集中的に学習します。時事問題は入試の前年に話題になったテーマが中心です。日食・月食などの天体ショー、台風や豪雨、地震や火山などの災害に関係するニュースなど、特に地学分野は出題が多くなります。また、外来種や絶滅危惧種、自然遺産など生物分野の問題も出題され、他にはノーベル賞や新発見、新技術など、話題となったテーマが出題されます。時事問題の出題頻度は、学校によって大きく異なります。用語だけを問う学校もあれば、大問として出題する学校、まったく出題しない学校などさまざまです。志望校の出題傾向に合わせてどれだけ力を入れるかを判断する必要があります。

計算問題・考察問題

計算問題については、定番問題は確実に押さえておく必要があります。生物、地学、化学、物理のどの分野においても、見たことがある問題は漏れなく解ける状態をつくり、模試においても正答率が高い標準的な問題で失点しないようにすることが重要です。特に難関校の入試においては、さまざまな特徴のある問題が出題されます。受験生のほとんどが解けないような難しい問題であれば失点によって大きな差がつくことはありませんが、時間内に解ける問題か、解くことが難しい問題かを見極める力は必要といえるでしょう。また、条件が複雑で解きにくい計算問題が出題される学校であれば、応用的な計算問題に積極的に取り組み、ひとつずつ解法知識を増やしていく学習が効果的です。初見の分析・考察問題が出題される場合には、限られた試験時間のなかで、与えられた条件から解答を導き出していく力が問われます。そういった学校を志望するのであれば、意識して早い時期から思考系の問題に取り組んでいくなど、対策を進めておきましょう。苦手だからと後回しにはせず、見直しと復習に時間をかけていくことが大切です。問題の条件と解答に至るまでの考え方、手順・解法を確認し、理解を深めておきましょう。



理科の後期の学習（SB・SAクラス）

学習目標

解答能力を伸ばし、得点を安定させるため、『マスターテキスト演習編STANDARD』の数値替え問題をプリント化した定着度確認プリントを使い、徹底して基本解法の定着を図ります。定着が甘い問題に関しては『マスターテキスト演習編STANDARD』に戻って解き直しを行っていきます。また、並行して『予習シリーズ有名校編』にある応用的な問題や実戦的な問題の演習を行い、難関校の入試問題にも対応できる力の習得を目指します。家庭学習で行う入試過去問題演習では、それぞれの志望校の対策を進め、出題傾向をつかみ、合格に必要な力を伸ばしていきます。また、基本知識の定着度を上げるため、知識の確認テストを実施します。このテストは知識の抜け漏れを確認し、その場で定着を図ることが目的です。正確な知識を身につけることで、問題文の意図を汲み取りやすくなり、細かいミスを減らすことにつながります。

後期授業カリキュラム

	授業回数	予習シリーズの回数	学習内容	確認テスト出題内容	
				マスターテキスト知識編確認テスト	チェックテスト10
9月	1	第2回	地学①(天体)	植物①	①
	2	第3回	物理①(力学)	植物②	②
	3	第4回	化学①(水溶液)	植物③	③
	4	第5回	生物②(ヒト)	昆虫	④
10月	5	第6回	地学②(大地)	動物	⑤
	6	第7回	物理②(電気)	人体	⑥
	7	第8回	化学②(気体)	生物と環境・環境	⑦
	8	第9回	生物③(動物)	天体①	⑧
11月	9	—	合不合判定テスト第5回対策	天体②	⑨
	10	第10回	地学③(気象)	天体③	⑩
	11	第11回	物理③(光と音)	天気と気象①	⑪
	12	—	合不合判定テスト第6回対策	天気と気象②	⑫
12月	13	第12回	化学③(燃焼・熱)	大地の変化	⑬
	14	第13回	入試直前対策(1)	化学	⑭
	15	第14回	入試直前対策(2)	燃焼・熱と状態変化	⑮
—	冬①	冬期講習会		実験器具	⑯
	冬②			電気と磁界	⑰
	冬③			音と光	⑱
	冬④			運動と力学	⑲
1月	16	第15回	入試直前対策(3)		⑳
	17	—	入試直前対策(4)		㉑
	18	—	入試直前対策(5)		㉒

教材の紹介

マスターテキスト演習編STANDARD[定着度確認プリント]

『マスターテキスト演習編STANDARD』の数値替えプリントです。必須問題の定着を図ります。

マスターテキスト知識編確認テストSTANDARD・BASIC

『マスターテキスト知識編』は入試に必須の知識をまとめた教材です。前期に続き、範囲を指定して確認テストを実施するため、その暗記が宿題になります。

チェックテスト10

授業冒頭で実施する、4択問題が10問並ぶ基本知識の確認テストです。事前の範囲指定はなく、基本知識の定着度を抜き打ちで確認していきます。

予習シリーズ6年下(有名校対策)

授業で使用する問題演習用のテキストです。重要な問題を選んで授業と宿題で使用します。

演習問題集6年下(有名校対策)

今までに学習した重要事項を確認するテキストです。主に宿題で使用します。

マスターテキスト実戦編

入試直前対策授業で使用する実戦力向上のためのSS・SB・SAクラス共通の演習用問題冊子です。各クラスが必要な問題を選択して演習します。入試の直前期に得点力の向上を図り、合格の可能性を上げるための教材です。

宿題の進め方

NN志望校別コースを受講される方

1)『マスターテキスト知識編』暗記[30分]

『マスターテキスト知識編』の解説をよく読んで、次回のテスト範囲に指定された知識の定着を図ります。解説には赤字で解答が書かれており、赤フィルムを使って学習することができます。また、周りに書かれた補足説明は理解を深めるのに有効です。

2)授業の復習+『予習シリーズ6年下(有名校対策)』・『演習問題集6年下(有名校対策)』[90分]

専用のノートに解答だけでなく、考えるのに使った式や表なども書き込みます。間違えた問題や解けなかった問題の見直しが重要です。授業の復習と合わせて解くためのポイントを確認しておきましょう。

NN志望校別コースを受講されない方

1)『マスターテキスト知識編』暗記[30分]

『マスターテキスト知識編』の解説をよく読んで、次回のテスト範囲に指定された知識の定着を図ります。解説には赤字で解答が書かれており、赤フィルムを使って学習することができます。また、周りに書かれた補足説明は理解を深めるのに有効です。

2)授業の復習+『予習シリーズ6年下(有名校対策)』・『演習問題集6年下(有名校対策)』[150分]

専用のノートに解答だけでなく、考えるのに使った式や表なども書き込みます。間違えた問題や解けなかった問題の見直しが重要です。授業の復習と合わせて解くためのポイントを確認しておきましょう。

学習上の留意点

入試過去問題演習

理科の入試問題は学校ごとにさまざまです。計算や記述が中心の学校や、実験や観察の結果から考察する問題を出題する学校、植物が出題の中心になる学校、電流と力学を交互に出題する学校など、その傾向は大きく異なります。入試演習では、まずその学校の出題傾向を押さえ、残りの期間にどのような学習をすれば良いのかというゴールを明確にすることが重要です。合格点をとるために必要な力を見極め、足りない部分については課題の克服に努め、改めて入試演習で到達度を確認していくという学習サイクルが理想的です。入試演習を上手に活用していくことで、効率的に志望校の対策を行うことができます。

過去の入試問題では、入試が行われた当時の時事問題が出題されていることがあります。こういった問題は見直しに時間をかける必要はありません。その分の点数は引いた形で考えましょう。また、入試問題において、満点はそう簡単にはとれないものです。まずは合格者平均点、理科が苦手であれば受験者平均点が確実にとれるように解き直しをしておきましょう。

時事問題

理科の入試では、時事的な内容をテーマにした問題がたびたび出題されます。早稲田アカデミーでは入試直前の冬期講習会で時事問題を集中的に学習します。時事問題は入試の前年に話題になったテーマが中心です。日食・月食などの天体ショー、台風や豪雨、地震や火山などの災害に係るニュースなど、特に地学分野は出題が多くなります。また、外来種や絶滅危惧種、自然遺産など生物分野の問題も出題され、他にはノーベル賞や新発見、新技術など、話題となったテーマが出題されます。時事問題の出題頻度は、学校によって大きく異なります。用語だけを問う学校もあれば、大問として出題する学校、まったく出題しない学校などさまざまです。直前期に時間をとって志望校の出題傾向に合わせた学習をしましょう。

計算問題・考察問題

計算問題については、『マスターテキスト演習編STANDARD』のAレベルの問題は、確実に解けるように復習しておきましょう。そのうえで継続してBレベルで解ける問題を増やしていき、模試の正答率が高い標準的な問題で失点しないような状態をつくることが重要です。特に上位校と呼ばれる学校の入試では、さまざまな特色がある問題が出題されます。受験生のほとんどが解けないような難しい問題であれば失点によって大きな差がつくことはありませんが、時間内に解ける問題か、解くことが難しい問題かを見極める力は重要な要素といえるでしょう。また、条件が複雑な計算問題が出題されるのであれば、応用的な計算問題にも積極的に取り組み、ひとつずつ解法知識を増やしていく学習も必要です。グラフや表などのデータから分析して考えて解く問題が出題されるのであれば、限られた試験時間のなかで、解答を導き出していく力が問われます。そういった学校を志望する場合には、入試の過去問題を中心に時間をとって対策に取り組んでいく必要があります。苦手だからと目をつぶるのではなく、見直しと復習に時間をかけましょう。問題の条件と解答に至るまでの考え方、手順・解法を確認して、理解を深め、解法知識を積み重ねていくことが大切です。

MEMO

MEMO

授業カレンダー〔前期〕

※「上①」は予習シリーズ上の第1回を指します。

2026	授業 実施	月	火	水	木	金	土
2/1 (日)							
2/2 (月)							
2/3 (火)							
2/4 (水)							
2/5 (木)							
2/6 (金)							
2/7 (土)							
2/8 (日)							
2/9 (月)	○	上②					
2/10 (火)	○		上②				
2/11 (水)	○			上②			
2/12 (木)	○				上②		
2/13 (金)	○					上②	
2/14 (土)		Y T ①					
2/15 (日)							
2/16 (月)	○	上③					
2/17 (火)	○		上③				
2/18 (水)	○			上③			
2/19 (木)	○				上③		
2/20 (金)	○					上③	
2/21 (土)		Y T ②					
2/22 (日)							
2/23 (月)	○	上④					
2/24 (火)	○		上④				
2/25 (水)	○			上④			
2/26 (木)	○				上④		
2/27 (金)	○					上④	
2/28 (土)		Y T ③					

●小6「予習シリーズ」上巻第1回の授業は、小5の1月最終週に実施します。
●小6初回授業:2/9(月)
※校舎によって異なります。

2026	授業 実施	月	火	水	木	金	土
3/1 (日)							
3/2 (月)	○	上⑤					
3/3 (火)	○		上⑤				
3/4 (水)	○			上⑤			
3/5 (木)	○				上⑤		
3/6 (金)	○					上⑤	
3/7 (土)		Y T ④					
3/8 (日)							
3/9 (月)	○	上⑥					
3/10 (火)	○		上⑥				
3/11 (水)	○			上⑥			
3/12 (木)	○				上⑥		
3/13 (金)	○					上⑥	
3/14 (土)							
3/15 (日)		組分けテスト⑤					
3/16 (月)	○	上⑦					
3/17 (火)	○		上⑦				
3/18 (水)	○			上⑦			
3/19 (木)	○				上⑦		
3/20 (金)	○					上⑦	
3/21 (土)		Y T ⑥					
3/22 (日)							
3/23 (月)							
3/24 (火)							
3/25 (水)							
3/26 (木)	講	春期講習会期間					
3/27 (金)	講						
3/28 (土)	講						
3/29 (日)	講						
3/30 (月)	講						
3/31 (火)	講						

●講習会実施日は学年・校舎により異なります。

2026	授業 実施	月	火	水	木	金	土
4/1 (水)		春期講習会期間					
4/2 (木)	講						
4/3 (金)	講						
4/4 (土)							
4/5 (日)							
4/6 (月)							
4/7 (火)							
4/8 (水)	○			上⑧			
4/9 (木)	○				合判対策		
4/10 (金)	○					合判対策	
4/11 (土)							
4/12 (日)		合不合判定テスト①					
4/13 (月)	○	上⑧					
4/14 (火)	○		上⑧				
4/15 (水)	○			上⑨			
4/16 (木)	○				上⑧		
4/17 (金)	○					上⑧	
4/18 (土)		Y T ⑦					
4/19 (日)							
4/20 (月)	○	上⑨					
4/21 (火)	○		上⑨				
4/22 (水)	○			上⑩			
4/23 (木)	○				上⑨		
4/24 (金)	○					上⑨	
4/25 (土)		Y T ⑧					
4/26 (日)							
4/27 (月)	○	上⑩					
4/28 (火)	○		上⑩				
4/29 (水)							
4/30 (木)							

●講習会実施日は学年・校舎により異なります。
●4月初回授業:4/8(水)・4/9(木) ※校舎によって異なります。
●4/9(木)・4/10(金)は合不合判定テスト対策です。

2026	授業 実施	月	火	水	木	金	土
5/1 (金)							
5/2 (土)							
5/3 (日)							
5/4 (月)							
5/5 (火)							
5/6 (水)							
5/7 (木)	○				上⑩		
5/8 (金)	○					上⑩	
5/9 (土)							
5/10 (日)		組分けテスト⑨					
5/11 (月)	○	上⑪					
5/12 (火)	○		上⑪				
5/13 (水)	○			上⑪			
5/14 (木)	○				上⑪		
5/15 (金)	○					上⑪	
5/16 (土)		Y T ⑩					
5/17 (日)							
5/18 (月)	○	上⑫					
5/19 (火)	○		上⑫				
5/20 (水)	○			上⑫			
5/21 (木)	○				上⑫		
5/22 (金)	○					上⑫	
5/23 (土)		Y T ⑪					
5/24 (日)							
5/25 (月)	○	上⑬					
5/26 (火)	○		上⑬				
5/27 (水)	○			上⑬			
5/28 (木)	○				上⑬		
5/29 (金)	○					上⑬	
5/30 (土)		Y T ⑫					
5/31 (日)							

2026	授業 実施	月	火	水	木	金	土
6/1 (月)	○	上⑭					
6/2 (火)	○		上⑭				
6/3 (水)	○			上⑭			
6/4 (木)	○				上⑭		
6/5 (金)	○					上⑭	
6/6 (土)		Y T ⑬					
6/7 (日)		全国統一小学生テスト					
6/8 (月)							
6/9 (火)							
6/10 (水)							
6/11 (木)							
6/12 (金)							
6/13 (土)		レベルアップ授業					
6/14 (日)		組分けテスト⑭					
6/15 (月)	○	上⑮					
6/16 (火)	○		上⑮				
6/17 (水)	○			上⑮			
6/18 (木)	○				上⑮		
6/19 (金)	○					上⑮	
6/20 (土)		Y T ⑮					
6/21 (日)							
6/22 (月)	○	上⑯					
6/23 (火)	○		上⑯				
6/24 (水)	○			上⑯			
6/25 (木)	○				上⑯		
6/26 (金)	○					上⑯	
6/27 (土)		Y T ⑯					
6/28 (日)							
6/29 (月)	○	合判対策					
6/30 (火)	○		合判対策				

●レベルアップ授業は組分けテストの対策補講です。

2026	授業 実施	月	火	水	木	金	土
7/1 (水)	○			合判対策			
7/2 (木)	○				上⑰		
7/3 (金)	○					上⑰	
7/4 (土)							
7/5 (日)		合不合判定テスト②					
7/6 (月)	○	上⑰					
7/7 (火)	○		上⑰				
7/8 (水)	○			上⑰			
7/9 (木)	○				上⑱		
7/10 (金)	○					上⑱	
7/11 (土)		Y T ⑰					
7/12 (日)							
7/13 (月)	○	上⑱					
7/14 (火)	○		上⑱				
7/15 (水)	○			上⑱			
7/16 (木)							
7/17 (金)							
7/18 (土)		総合回⑱					
7/19 (日)							
7/20 (月)							
7/21 (火)	講	夏期講習会期間					
7/22 (水)	講						
7/23 (木)	講						
7/24 (金)	講						
7/25 (土)	講						
7/26 (日)	講						
7/27 (月)							
7/28 (火)	講						
7/29 (水)	講						
7/30 (木)	講						
7/31 (金)	講						

●講習会実施日は学年・校舎により異なります。
●6/29(月)～7/1(水)は合不合判定テスト対策回です。

